

開催報告
 平成 28 年度 KANSEI “感性” サロン
 ～オリンピックの感性とスポーツ科学～



国立研究開発法人産業技術総合研究所中国センターと公益財団法人ちゅうごく産業創造センターは、中国地域の企業や研究者の皆様と共に「感性」に富んだビジネスの研究を推進しています。

平成 28 年 10 月 5 日(水)に広島市のホテルセンチュリー21 広島において、120 名の方に参加いただき、感性および人間工学の研究活動に関わる集いとして「平成 28 年度KANSEI“感性”サロン」を共催しました。



- 〔主催〕 国立研究開発法人産業技術総合研究所中国センター
 公益財団法人ちゅうごく産業創造センター
- 〔後援〕 中国経済産業局、広島県、広島市、広島大学感性イノベーション推進機構（COI）、
 （一社）中国地域ニュービジネス協議会、（独）中小企業基盤整備機構中国本部、
 日本感性工学会、（一社）日本人間工学会

第 1 部<トップアスリートサロン>
「オリンピックの感性とスポーツ科学」

スキージャンプ金メダリスト 船木和喜氏	インタビュアー 渡部和彦氏
	

V 字飛行の風洞実験



スキージャンプの長野五輪金メダリスト 船木和喜氏をお迎えし、全日本代表スキージャンプチームの元トレーニングドクターで競技力向上の研究に詳しい広島大学名誉教授 有限責任事業組合スポーツ健康科学研究所(LLP) 代表渡部和彦氏のインタビューによって、トップアスリートの研ぎ澄まされた感性とそれを支える人間工学を活用したコーチング、トレーニング、および用具開発等に関してお話を伺いました。

V字飛行の風洞実験や踏切り、滑空のハイスピードカメラ映像の解析などで、感覚的に行っていた動作の改善を科学的に行うことができたこと、ウェアやスキー板等用具の性能がスキージャンプ技術と密接に関わっていることなどについての紹介がありました。

また、船木和喜氏から金メダルを会場に回覧していただき、参加者が手に触れて質感や色合いなどを興味深く確かめられていることも印象的でした。



【アスリートサロンの風景】



第2部《講演》

【講演1】

「筋肉スーツ DARWING のオーダーメイドシステムの開発」

ダイヤ工業株式会社 メーカー本部先端技術責任者 小川和徳氏にご講演をいただきました。

ダイヤ工業さまが支援しているリオパラリンピックに出場した松永仁選手、佐藤友祈選手(銀メダル 2 個を獲得)への支援内容、サポーターのスパッツ機能とサポート機能、建設作業用や剣道に特化したサポーターを異業種とコラボした事例、いろいろなサポーターを組み合わせるオーダーメイドシステムなどを紹介していただきました。

また、オーダーメイドシステムを実現するために必要なモデル化、シミュレーション、評価などについて紹介していただきました。

ダイヤ工業株式会社
小川和徳氏



【講演2】

「スーパーヒューマンは作れるか？

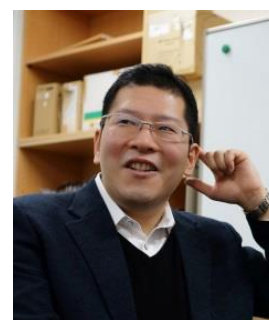
～人の感覚運動特性の理解と運動支援技術～

広島大学 大学院工学研究院 准教授 栗田雄一氏にご講演をいただきました。

身体を自分で動かす楽しさを支援する技術、超人化に必要な技術について紹介していただきました。

電気を使わずに必要な部位に必要なタイミングで支援できるアンプラグド・パワー・スーツ(無電力供給型身体運動支援スーツ)、筋負担軽減により感覚運動パフォーマンスを向上させることのできるスーツ、運動感覚を拡張するデバイスなどについて紹介していただくとともに、人の特性を考慮した今後のアシストの方向性、課題について講演いただきました。

広島大学
栗田雄一氏



第3部《カフェ・サロン(交流会)》

カフェ・サロン(交流会)には 90 名の方に参加していただきました。

船木和喜氏をはじめ講演の方との意見交換や参加者間での情報交換などが活発に行われ、楽しい時間を過ごされ交流を深めていただきました。

【講演等の風景】

小川和徳氏



栗田雄一氏



カフェ・サロン



事務局所感

非常に強い台風 18 号が接近するとの予報により開催が危ぶまれ、JR などの公共交通機関にも遅れが生じましたが、たくさんの皆様にご来場いただき楽しんでいただけました。

スキージャンプは風に乗る、美しい飛形を保って、飛距離を伸ばすという競技で、高度のスキルとその時々々の外部環境を感じる感性が必要な競技だと思います。トップアスリートが感覚的にやっている動作の科学的な分析による改善、人間工学を活用したモデル化により感覚的なサポート効果を科学的に分析する手法などを参考にいただき、感性価値を高める製品・サービス開発の一助になれば幸いです。

日本語の「感性」は今やそのまま英語“KANSEI”として使用され、世界に流布し関心を集めています。金メダルに初めて触りましたが、重厚な漆塗りのメダルでとても日本的で、その色合い、質感により金メダルを獲得した国々の方に日本の伝統工芸の心が伝わったのではないかと嬉しく思いました。